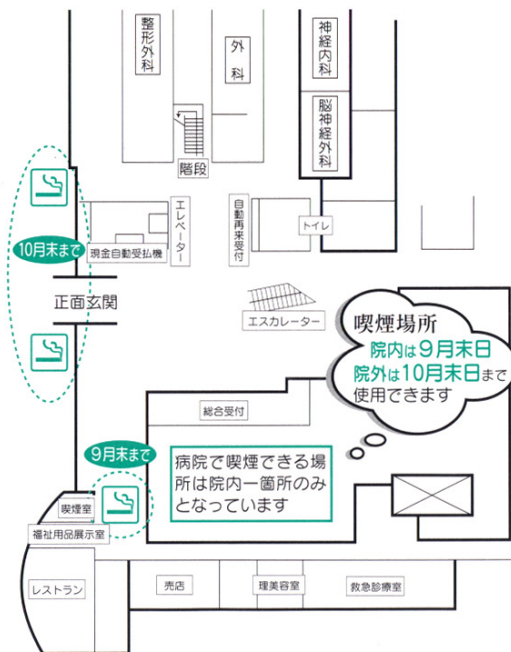


労災かわらばん

2004

—夏号—

Vol.14 発行日／平成16年8月23日 編集／釧路労災病院新聞局



7月から、当院でも数ヶ所の特例を除いて全館禁煙となりました。タバコは「他人に迷惑をかけたければいいんじゃない？」と思っていられる方も多いようですが、本当にそうなのでしょうか？日本国内の調査では、肺病になる確率は喫煙者で非喫煙者の8倍以上と言われています。心筋梗塞や脳卒中で死亡するリスクも、2～4倍と報告されています。35歳以降の生存率は喫煙本数別に調べたところ、1日25本以上の喫煙者と非喫煙者では70歳時点で80%と50%で約1.5倍の開きがあります。さらに85歳になると33%と8%で約4倍にもなっています。また、タバコを吸う親の子供が小児ぜんそくになるリスクは4倍以上。「喫煙者は長生きできない」ばかりか「家族にも害をばらまいている」のです。

我が国が喫煙に対して甘い理由は、たばこ産業保護の観点とも地方税収を求める自治体の圧力とも言われています。しかし、他人のせいにすることはできません。病気で倒れてからは遅すぎます。病気でタバコ依存症という病気に一日も早く気がついて、正しい対策を取ることがいま求められています。

肺がんにかかった場合、働いている方でしたら仕事を休まなければなりません。早期に発見・手術できたとしても1～2か月は仕事に復帰できないでしょう。肺がんの手術入院には100～200万円の費用がかかります。「保険に入っているから大丈夫」ではなく、その費用の大半は健康に働いている人々の保険料からまかなわれるのです。つまり、喫煙者は非喫煙者に多大な負担を強いていることになります。わかっていても、やめられないタバコ。そこにはニコチンへの身体的依存と、習慣になった喫煙行動への心理的依存があります。要するに病気のリスクがあると言われているストレスがあると言われています。ストレスから逃れたいという動機の上に、一時的に満足感が得られ気持ちよくなるモノ。それがタバコというわけです。しかし、続けているうちに喫煙習慣そのものが目的となってしまう。実は、タバコを止められない理由は「意志の強さ」とは関係ないのです。依存症（中毒）の程度が強ければ、それだけ止めるためのハードルが高いこととなります。

自分だけではない タバコの害
“全館禁煙にむけて”

禁煙実行委員会 委員長 小笠原 和宏



＊ ＊ 労災病院ドクター紹介 Vol.14 ＊ ＊

①職種・氏名 ②生年月日・血液型
③出身地 ④専門・得意分野
⑤趣味等簡単な自己紹介・患者さんへ

- ①内科部長・依田 有生
②昭和41年5月11日・O型
③釧路市
④消化器科
⑤今年の4月より当院にて勤務させて頂いております。地域の患者様が安心して医療を受けられるように一層努力し、より良い医療を提供したいと考えております。



依田 有生 先生

- 能登 俊先生
①内科部長・能登 俊
②昭和41年6月26日・A型
③札幌市
④一般内科・血液内科・造血幹細胞移植
⑤4月より当院内科に勤務しております。血液内科が得意分野で、末梢血幹細胞移植・骨髄移植が可能となるように体制を整えていきたいと思っています。

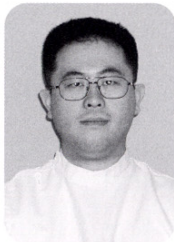
能登 俊先生

- ①リハビリテーション科部長・今中 香里
②昭和30年10月6日・A型
③東京都
④泌尿器科・リハビリテーション科
⑤道東の自然が好きでよく遊びにきていました。平成5年の釧路沖地震の時は霧多布にいました。リハビリは障害を持つてよりよい生活を送るための医学です。皆さんの生活向上のお手伝いができるようお願い致します。



今中 香里 先生

- ①皮膚科副部長・佐藤 克彦
②昭和47年11月25日・AB型
③河東郡音更町
④皮膚科一般
⑤本年4月から当院皮膚科に勤務させて頂いております。地域の皆様に親しまれるように、そしてより良い医療を提供できるように努力してまいりたいと考えております。



佐藤 克彦 先生

- ①循環器科部長・坂井 英世
②昭和43年9月14日・A型
③札幌市
④循環器科一般・特に冠動脈カテーテル治療
⑤画期的な治療器具である薬物溶出冠動脈ステント植込を釧路地区では当科が初めて行う等、バイパス手術に頼らずに心筋梗塞や狭心症を治療することをモットーとしています。地域の皆様の医療に貢献出来るように頑張りたいと思っています。



坂井 英世 先生

- ①眼科部長・柳谷 典彦
②昭和42年4月13日・O型
③旭川市
④眼科一般
⑤10年ぶりに労災病院へ戻ってきました。つねに患者様の立場に立った眼科医療を提供するということをモットーとして日々努力を続けていく所存です。どうぞよろしくお願い致します。



柳谷 典彦 先生